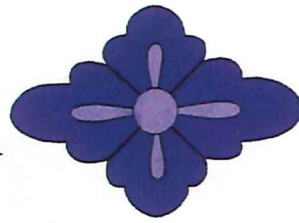


菩提樹

佛さまに育てられる年輪



第20号 令和4年4月発行

編集・発行
正法寺

山口市江崎2710

TEL

083-989-2213

FAX

083-989-5339



写真:コロナ禍の中、一度も中止されず続けられた毎月16日の御命日法座の様子。

新型コロナウイルスが世の中に登場してから、二年以上の月日が経ちました。眼に見えない小さな存在が、人心を乱していく様子を目の当たりにしています。人というのは、無常の理の中から逃れることはできません。どんな状況下でも、安定した変わらない心を保ち続けるというのは、私達には不可能なことでしょう。人は、状況によって、心も体も乱れていく大きな不安を抱えた存在なのです。

聖徳太子の有名なお言葉に「世間虚仮 唯仏是真」というものがあります。このお言葉は、聖徳太子が亡くなる時に、お后であつた橘大郎女という方に遺された遺言です。「世の中のあらゆるものは、虚しく変化していく仮初めのものであり、ただ仏様だけが変化することのない真実なのだよ」という意味です。だから、仏様を心の拠り所として生き、仏様の世界に生まれてくるように生きなさいとお后に遺言されたのです。約一四〇〇年前の遺言です。一四〇〇年経過しても、一向に色あせない響きがあります。なぜなら、一四〇〇年前も現在も、人間境涯は、虚しく変化していく仮初めの世界であることに変わりはないからです。

このたびのコロナ禍で、大きな痛手を被つたのはお寺も例外ではありませんでした。人が集まることが制限され、これまで積み重ねてきた様々な伝統的な行事の形も崩れていきました。お寺も無常の理の中にあるのです。しかし、形が崩れたとしても、お寺で響く仏様のお心は、けつて崩れることはありませんでした。形を変え開かれた御法座で聞かせていただくお心は、何も変わらないものです。コロナ禍前と同じように、私を深く慈しみ、私の悲しみを深く悲しんでくださる、そんな温かい願いの中に私の命があることを教えていただきました。むしろ、コロナ禍の中だからこそ、強く響いてくださったのではないのでしょうか。

コロナ禍の中、変わることをない振り所をいただくことの大切さを痛感します。様々な時代を超え、人々の上に変わらざる響いてきた真実のお心を、命ある限り、大切に聞かせていただきますように。

(正法寺住職)

仏教婦人会

コロナ禍の中歩んだそれぞれの一年



10月30日(土)秋季大会。春季大会と同様、密を避けるため午前と午後で参詣者の地区分けをして開催。御講師は、福岡教区から北嶋文雄先生がお越しく下さいました。



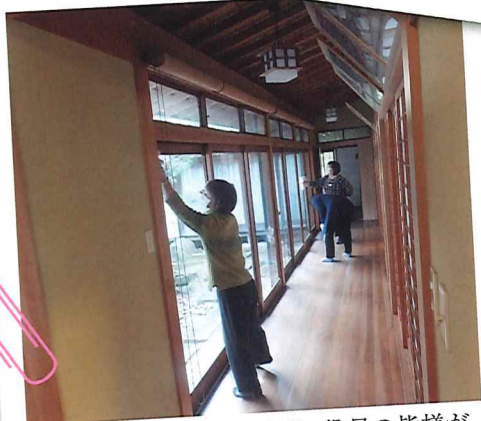
3月6日(土)新旧合同役員会。令和3年度の活動が開始されました。



11月10日(水)仏具お磨き奉仕。毎年12月に実施のところ、感染症対策をとり、まだ寒くなる前の11月に換気をしながら実施しました。



4月10日(土)総会・春季大会。密を避けるため、午前と午後で参詣者の地区分けをして開催。御講師は、京都教区から山本泉茂先生がお越しく下さいました。



11月27日(土)年末清掃奉仕。役員の皆様が、マスクを着用し、本堂や門徒会館などを大掃除してく下さいました。



9月25日(土)役員会。秋から冬にかけての活動について話し合われました。

仏教壮年会



5月、7月、8月、1月と4回にわたって、仏教青年会と合同で聖夜の集いが開催されました。



5月19日(水)2年ぶりに総会が開催されました。令和3年度の活動が開始されました。



12月に恒例の年末奉仕作業が開催されました。外回りを、大掃除してくださいました。



12月の清掃奉仕作業の後、久しぶりに会員が集まり、お勤めをし、御法話をお聴聞いたしました。



令和三年度も活動のできない日々が続きました。十二月に、一度だけ会員で集まり、今後の活動について話し合われました。感染状況をみながら、春には活動を再開させたい思いを確認いたしました。

コール芬陀利華

仏教青年会



年末に高校生が除夜会の準備をしてくれました。



除夜会の準備の後、お正月のお供えのお餅作りも手伝ってくれました。



日曜学校



8月のサマースクール。感染症対策をとり、お泊まりは中止。納骨堂でビンゴ大会を開催しました。



4月の開校式。令和3年度の日曜学校が開校しました。みんなで記念撮影。



お正信偈のお勤めも、とても上手にできるようになりました。



感染症対策をとり、一年間、色んなゲームを楽しみました。中学生が、よく手伝いに来てくれました。



1月の御正忌報恩講参拝。感染者数が過去最多を連日更新する中、約20名の日曜学校生が参拝してくれました。親鸞聖人の御遺徳を一緒に偲ばせて頂きました。



住職の法話も、とても上手に聞けるようになりました。



はじめてのお寺参り



どんな楽しいことでも、最初の第一歩は、誰もが不安なものです。「正法寺新報で案内を見るけど・・・」「本当に誰でもお参りできるのかな・・・」「興味はあるけど、作法とかがわからないな・・・」など、モヤモヤした思いを胸に秘めている方も多いのではないのでしょうか。このコーナーでは、人に聞きにくいお寺参りの第一歩について、分かりやすく解説していきます。

お寺にお参りする手順が分からない、、、普通の講演会場に入るように入っていいのかなあ？



お寺は、人の話を聞きに行くところではありません。仏様のお話を聞きに行くところ。お寺に入るところから仏様を意識してください。まず、山門をくぐる時に、立ち止まって本堂に向かって一礼をします。そして、本堂に入ってから、もう一度入り口で立ち止まって阿弥陀如来様に向かって一礼です。ここですぐに椅子に座ってはいけません。まずは、焼香台の前まで進み、お香をひとつまみして、香炉の中に入れます。両手を合わせお念珠をかけ、「なもあみだぶつ、なもあみだぶつ・・・」とお念仏を申しながら深く頭を下げます。ここまで終われば、ご自分のお好きな席にお座りいただき、御法座が始まるまでごゆっくりお過ごしください。

お寺にお参りするのに、何を持っていけばいいのかなあ？



お寺には、お念珠・聖典・式章の三点セットを持っていけば大丈夫です。他のものは必要ありません。お念珠は、宗派によって形が異なりますので、浄土真宗本願寺派(西本願寺)で定められているお念珠を持つようにしましょう。お念珠を仏具店で購入する際、宗派を伝えると、ちゃんと用意して下さいます。聖典は、私達の抛り所となるお言葉が詰まった宝箱のようなものです。御法座では、参詣者全員で、聖典のお言葉を拝読しお勤めをいたします。式章は、肩衣という衣服の上に着用する伝統的な礼服の代わりになるものとして作られたものです。身だしなみを整える意味があります。聖典と式章は、お寺でも購入できます。

御法座には、いくらか包んでいくものなのかなあ？



お寺の御法座は、参詣者の御法礼によって運営されています。御法礼というのは、仏縁をいただいたことに対するお礼のお気持ちを表していくものです。参詣者の方々が包まれた御法礼は、御法話をしてくださる御講師へのお礼代、電気代や灯油代などの光熱費、お斎という参詣者の方々がいただく食事の材料費などに使われています。金額に定めはありません。できる範囲で無理なくお礼のお気持ちをお包みください。本堂に入って右手に御法礼を受け付ける帳場が設けられています。御法座の折には、会計担当の総代様が帳場にお座りですので、阿弥陀如来様に礼拝された後、帳場にて御法礼をお包みください。

御門徒からのあれこれ Q&A

このコーナーでは、今まで実際に御門徒の方々からいただいたご質問を紹介していきます。特に、今回は、正法寺から離れて暮らす遠方の御門徒の方々の悩みをご紹介します。子ども世代が、県外で暮らしているご家庭が増えています。今後、同様の悩みは増えていくように思います。

県外で家族が亡くなった場合、お葬式をどのようにすればよいでしょうか？



まずは、正法寺にご連絡ください。県外でも、できるだけ住職がお参りいたします。住職がお参りできない場合は、お住まいの近隣地区の信頼できるお寺様へ正法寺から代務のご依頼をいたします。浄土真宗本願寺派では、各地域に本願寺の別院があります。別院が、正法寺と当該地域の寺院との仲介をしてくださることもあります。遠慮なくご相談ください。葬儀社が用意する僧侶の中には、寺院に属さず、マンション等に住みながら葬儀だけを勤めるような信頼のできない方も含まれていますのでご注意ください。

実家にあるお仏壇を、今後、どのようにしたらよいでしょうか？



今お住まいのご自宅に移すことができるなら、それが一番です。しかし、大きさ等の問題から、移すことのできない方が多いのも現実です。その場合、実家のお仏壇を処分し、お住まいのご自宅に新しいお仏壇をお迎えすることになります。処分する場合には、住職と一緒に最後のお勤めをさせていただき、ご本尊の阿弥陀如来様と脇掛けの親鸞聖人と蓮如上人の御絵像をお寺でお預かりいたします。礼拝の対象がなくなったお仏壇は、ご自由に処分されて大丈夫です。お住まいのご自宅に新しくお仏壇をお迎えする際には、礼拝の対象となるご本尊の阿弥陀如来様と脇掛けの親鸞聖人と蓮如上人は、ご本山である西本願寺からお迎えいたしましょう。お迎えする時には、正法寺にご相談ください。

今後、山口県にあるお墓を守ってくれる家族や親戚がいません。どうしたらよいでしょうか？

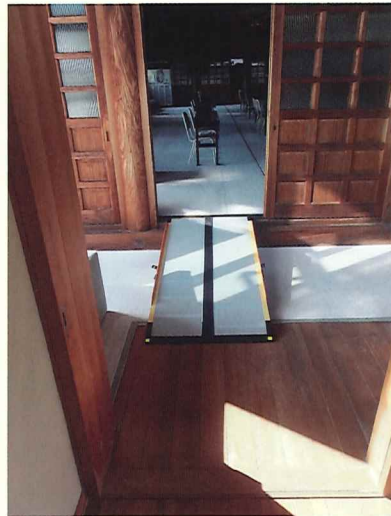
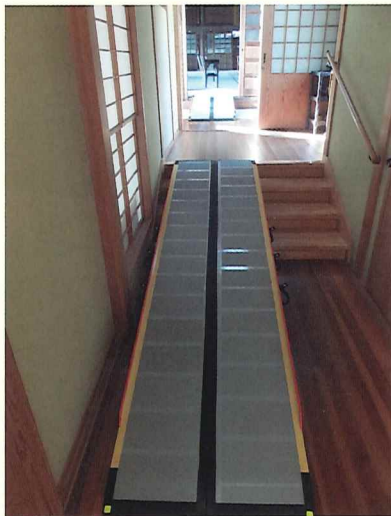


お墓は、遺族の方々がお参りしやすい場所にあることが大切です。お住まいの近くで墓地や納骨堂があれば、お近くに移されるのがよろしいかと思います。それが難しい場合は、正法寺の納骨堂に移すこともできます。正法寺の納骨堂に一度納められたお骨は、将来、守る方がいなくても、永代にわたり正法寺が管理いたします。お墓を処分する前には、住職が墓地にお勤めに参りますので、日程のご相談をください。それと、お墓を処分する前には、必ず墓地の管理者に報告し許可をもらってください。行政が管理している墓地であれば、様々な手続きも必要になるかと思えます。

正法寺ホームページのお問い合わせ欄からも、ご自由にご相談ができます。ご利用ください。
<http://www.shouhouji.com/> (山口市正法寺で検索ください)

お参りしやすくなりました!

この度、ある御門徒の方から、「体の不自由な方々でもお参りしやすいように」との願いと一緒に多額のご懇志を賜りました。ご懇志を活用させていただき、様々な整備をさせていただきました。おかげさまで、お寺がさらにお参りしやすくなりました。



車椅子でも参拝しやすいように、車椅子用のスロープを購入いたしました。大玄関から門徒会館の階段をとお参りできます。とても軽く、大人一人ですぐに設置することが可能です。車椅子でのご参拝希望の方は、遠慮なさらずにお申し出ください。お待ちしております。



本堂正面の階段に手すりを設置させていただきました。足の不自由な方でも、安心して本堂にお参りできるようになりました。



今まで座り机だった帳場台を立ち机のものに新調いたしました。御法礼の受付時に座ったり立ったりを繰り返すことが必要なくなり、足の不自由な方にとって、負担が少なくなりました。



鐘楼(鐘撞き堂)に手すりを設置いたしました。御法座の時や除夜会の時など、足の悪い方やまた、暗い中でも安心して鐘が撞けるようになりました。



懸案事項だった鐘楼のボロボロだった漆喰をきれいに修復することができました。

コロナ禍の二年、御法座の記録



8月のお盆会



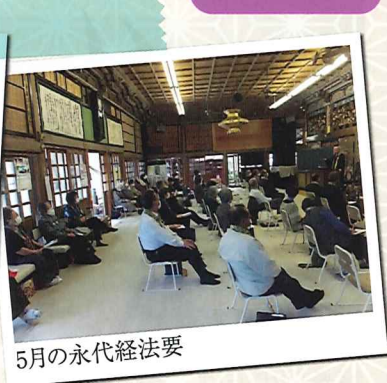
6月の前住職・前坊守の17回忌法座



1月16日の御正當に勤められた御正忌報恩講



7月のつくりあがり法座



5月の永代経法要



長女・如恵(ゆきえ)

- 川西中学校三年・バスケットボール部
- 体を動かすことが好きです。
- よく笑い、よく食し、よく眠り…心も体も急成長。
- 習字教室では、師範昇段に向けて研鑽中。



寺族アルバム



新発意・法響(かずなり)

- 山口高校二年・剣道部
- 良き出会いに恵まれ、愉快的な友と高校生活満喫中。
- 時間を見つけては、趣味のピアノを弾いています。



編集後記

今年もコロナ禍でのお寺の様子を中心に編集しました。コロナ禍の中でもお聴聞にお参りされる御門徒の方々のお姿に、お寺の尊さが表われているように思います。困難な状況が続きますが、この尊さが次代にも続いていくよう、お寺のご縁を大切にさせていただきます。

編集委員

岩脇 利明
西村 鈴江
西村 和久
原田 輝子

正法寺ホームページ <http://www.shouhouji.com/>
 「[山口市正法寺](#)」で検索して下さい。
 毎月更新しています。過去の菩提樹もすべて閲覧できます。

仏教婦人会代表紹介

西村 由紀江 さん
 石田 和代 さん
 西村 鈴江 さん